

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

伊藤匠平（東京大学総合文化研究科修士課程）

初めに、Covid-19 による社会的制限がある中、オンライン開催という形で準備、奔走してくださった東京外国語大学 AA 研所員の方々、そして事務局の千葉様に厚くお礼を申し上げます。今回の教育セミナーはオンラインの形式で開催されましたが、大きな障害も発生することなく、後で詳細に述べるように、講師及び院生の発表を通して学び得られたものが多々ありました。

現在、私は大学院の地域研究専攻に所属しており、そこでは学問横断的な研究や見方が要求されています。しかし、学部生時代は文学部の歴史学専攻ということもあり、また、私自身の他の人文社会科学系学問に対する関心の薄さのために、他の学問分野での研究に接する機会がほとんどなく、地域研究の意義を考えることもありませんでした。従って、様々な地域・国、学問分野を横断して行われる本教育セミナーは地域研究の意味を考える上で、私にとって貴重な経験となり、歴史学以外の分野での研究発表は私の知的好奇心を大きく刺激し、これからの研究において大いに役立つものとなりました。

特に、岩崎えり奈先生と熊倉和歌子先生のセミナー発表は、私が今後、研究を行っていくうえで重要な指針をお示しになりました。岩崎先生のセミナー発表では、エジプトを事例に量的調査と質的調査の可能性と限界について論じられました。このような社会学的な視点はオスマン帝国における労働史、社会経済史を勉強している私にとって、研究上の大きな示唆となり、今後の研究では社会学的手法を取り入れたいと思いました。熊倉先生の発表では GIS（地理情報システム）を取り入れた近年の人文学の動向や、デジタル・ヒューマニティー、ヒストリーの意義や可能性が示されました。私の卒業論文では地図を作成する必要があり、グーグルマップからトレースして地図を作成するという幾分かアナログな方法を用いたために、今回の熊倉先生の発表は今後、地図を作成する上で有意義なものとなり、また、コンピューター、デジタル知識を学ぶ必要性を痛感し、襟をただされました。

以上の発表に加えて、他の講師、院生の方々の発表や質疑応答もまた学術的な刺激を与えるものであって、今後は他の学問分野に関する知見を取り入れる必要性を感じました。セミナー後のオンラインでの懇親会において、院生や講師の方々と交流して、様々な人々と情報交換をすることができたのは大きな実りとなりました。

今年のセミナー発表では私が発表することはありませんでしたが、様々な人々から批判、アドバイスを受ける立場の者として、来年の教育セミナーでは修士論文に関する発表を行いたいと考えています。Covid-19 による社会的制限（コロナ禍）のある中、教育セミ

ナーの開催に尽力して下さった AA 研の方々に再度、お礼を申し上げます。来年こそは、コロナ禍が落ち着いて、教育セミナーが対面で実施されることをただ祈るばかりです。